



2026年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年3月13日

上場会社名 株式会社CINC 上場取引所 東
 コード番号 4378 URL <https://www.cinc-j.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石松 友典
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部経理財務部長 (氏名) 森田 栄一 (TEL) 03-6822-3601 (代表)
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年10月期第1四半期の連結業績(2025年11月1日～2026年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年10月期第1四半期	392	△16.3	△2	—	△1	—	△4	—
2025年10月期第1四半期	469	—	0	—	1	—	△21	—

(注) 包括利益 2026年10月期第1四半期 △4百万円(—%) 2025年10月期第1四半期 △21百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期第1四半期	△1.43	—
2025年10月期第1四半期	△6.48	—

- (注) 1. 2025年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年10月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 2025年10月期及び2026年10月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年10月期第1四半期	1,347	1,056	78.4
2025年10月期	1,380	1,055	76.5

(参考) 自己資本 2026年10月期第1四半期 1,056百万円 2025年10月期 1,055百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年10月期	—	—	—	—	—
2026年10月期(予想)	—	0.00	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年10月期の連結業績予想(2025年11月1日～2026年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,681	△7.8	7	—	7	—	4	—	1.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年10月期1Q	3,523,075株	2025年10月期	3,432,865株
2026年10月期1Q	569,439株	2025年10月期	569,439株
2026年10月期1Q	2,923,921株	2025年10月期1Q	3,372,421株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、緩やかな回復基調が続きました。一方で、原材料価格の高騰や円安の長期化による物価上昇による個人消費の抑制傾向や海外経済の減速懸念、地政学的リスクの長期化などが我が国経済を下押しするリスクとなっており、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループが展開するサービスを取り巻く環境では、購買プロセスのデジタル化が進むなか、企業のマーケティング活動におけるデジタルシフトが一段と加速しております。これにより、DXコンサルティングや「Keywordmap」等の需要は引き続き拡大傾向にあります。

加えて、生成AI技術の進化および普及は極めてハイスピードで進捗しており、AI回答機能の導入等による検索行動の変容への対応に加え、生成AIを駆使した業務効率化や高度な施策立案へのニーズがかつてないほど高まっております。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間の売上高は392,666千円（前年同四半期比16.3%減）となりました。営業損失は2,440千円（前年同四半期は営業利益827千円）、経常損失は1,213千円（前年同四半期は経常利益1,159千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4,198千円（前年同四半期純損失21,858千円）となりました。

報告セグメント別の経営成績の概況は次のとおりであります。

(ソリューション事業)

ソリューション事業においては、「Keywordmap」の機能追加およびアップデートに注力しました。Google検索の「AI Overviews (AIO)」に対応し、検索結果への引用状況や参照元URLを可視化する「AIOs出現レポート」のアップデートを実施したほか、AIが既存記事の分析と改善提案を行う「リライトAI診断機能」をリリースいたしました。これにより、AI検索時代の新たなSEOニーズを捉えた高付加価値なサービスの提供を実現しております。

一方で、新規営業およびカスタマーサクセスの人員不足については、外部人材の活用や新規採用・育成を継続しているものの、依然として完全な解消には至っておらず、新規案件の獲得や解約率の抑制が課題となっております。

その結果、当セグメントの売上高は180,707千円（前年同四半期比10.8%減）となり、セグメント利益は42,560千円（前年同四半期比5.1%減）となりました。

(アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、マーケティングDXコンサルティングサービスにおいて、生成AIの普及に伴う検索行動の変化に対応した「AI検索最適化 (GEO/LLMO) コンサルティング」および「SNSコンサルティング」領域において新規受注が進捗しております。また、自社開発の分析ツールにおいて、複数の生成AIモデル間でのブランド評価を可視化する機能を追加するなど、提案内容の質的向上を実現いたしました。

組織面においては、GeminiやChatGPTといった生成AIを業務フローに活用することで、業務の高度化と効率化を両立できる体制構築を推進しております。コンサルタントの人員不足という制約は依然として残るものの、AI技術による業務標準化を通じて、生産性の向上に努めております。

その結果、当セグメントの売上高は216,956千円（前年同四半期比20.6%減）、セグメント損失は29,809千円（前年同四半期はセグメント利益9,798千円）となりました。

(M&A仲介事業)

M&A仲介事業につきましては、前連結会計年度において売上計上に至らなかったことを踏まえ、事業体制の最適化およびコスト構造の見直しを実施いたしました。具体的には、新規採用の一時停止、広告宣伝費やシステム開発投資の精査、人員体制の適正化などを行い、収益性を重視した運営体制へと移行しております。

また、案件の質を高める観点から取り扱い案件の選別を行い、他の仲介会社とのマッチングにおける協業体制を構築するなど、成約確度の向上に向けた取り組みを進めておりますが、デュー・デリジェンスの長期化により当第1四半期連結累計期間中の成約には至りませんでした。

その結果、当セグメントの売上高は一千円（前年同四半期 一千円）、セグメント損失は15,191千円（前年同四半期はセグメント損失53,840千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較し33,033千円減少し、1,347,078千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少（前連結会計年度末比32,542千円の減少）、売掛金の減少（前連結会計年度末比11,195千円の減少）によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較し33,518千円減少し、290,835千円となりました。これは主に、買掛金の減少（前連結会計年度末比23,480千円の減少）、未払法人税等の減少（前連結会計年度末比17,293千円の減少）、賞与引当金の減少（前連結会計年度末比15,753千円の減少）によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比較し485千円増加し、1,056,243千円となりました。これは主に、ストックオプションの行使による資本金の増加（前連結会計年度末比2,394千円の増加）、資本剰余金の増加（前連結会計年度末比2,394千円の増加）と、当第1四半期純損失の計上による利益剰余金の減少（前連結会計年度末比4,198千円の減少）によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年10月期の業績予想については、2025年12月12日の「2025年10月期 決算短信」で公表いたしました通期の予想数値に変更はございません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	847,798	815,255
売掛金	169,546	158,350
その他	54,559	62,766
貸倒引当金	△623	△576
流動資産合計	1,071,280	1,035,796
固定資産		
有形固定資産	69,745	68,119
無形固定資産	69,631	77,664
投資その他の資産		
その他	170,359	167,627
貸倒引当金	△905	△2,129
投資その他の資産合計	169,454	165,498
固定資産合計	308,831	311,282
資産合計	1,380,111	1,347,078

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	62,530	39,049
未払法人税等	17,552	259
賞与引当金	35,778	20,024
その他	174,820	197,709
流動負債合計	290,682	257,043
固定負債		
資産除去債務	33,671	33,791
固定負債合計	33,671	33,791
負債合計	324,353	290,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,031	12,425
資本剰余金	934,917	937,311
利益剰余金	461,112	456,913
自己株式	△350,485	△350,485
株主資本合計	1,055,575	1,056,165
新株予約権	182	78
純資産合計	1,055,758	1,056,243
負債純資産合計	1,380,111	1,347,078

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
売上高	469,223	392,666
売上原価	158,931	148,870
売上総利益	310,292	243,795
販売費及び一般管理費	309,465	246,236
営業利益又は営業損失(△)	827	△2,440
営業外収益		
受取利息	29	22
受取手数料	—	402
助成金収入	200	775
償却債権取立益	—	1,156
その他	138	94
営業外収益合計	367	2,451
営業外費用		
支払利息	35	—
貸倒引当金繰入額	—	1,224
その他	0	—
営業外費用合計	35	1,224
経常利益又は経常損失(△)	1,159	△1,213
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6
特別利益合計	—	6
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,159	△1,206
法人税、住民税及び事業税	2,767	260
法人税等調整額	20,250	2,732
法人税等合計	23,017	2,992
四半期純損失(△)	△21,858	△4,198
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△21,858	△4,198

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
四半期純損失(△)	△21,858	△4,198
四半期包括利益	△21,858	△4,198
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△21,858	△4,198

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	M&A仲介 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	197,380	271,843	—	469,223	—	469,223
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5,249	1,400	—	6,649	△6,649	—
計	202,629	273,243	—	475,872	△6,649	469,223
セグメント利益 又はセグメント損 失(△)	44,868	9,798	△53,840	827	—	827

(注) 1. 「調整額」の△6,649千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	M&A仲介 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	175,710	216,956	—	392,666	—	392,666
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,997	—	—	4,997	△4,997	—
計	180,707	216,956	—	397,663	△4,997	392,666
セグメント利益 又はセグメント損 失(△)	42,560	△29,809	△15,191	△2,440	—	△2,440

(注) 1. 「調整額」の△4,997千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
減価償却費	13,524千円	14,112千円